

田口早生 (たぐちわせ)

登録番号：第4725号

育成者：田口耕作

登録年月日：平成7年9月14日

来歴：「興津早生」の枝変わり

登録者：田口耕作

育成地：和歌山県有田郡有田川町田口

特性

■栽培特性

樹姿は開張性で、樹勢は「興津早生」に比べやや強い。枝梢の太さ、節間長は中である。葉の長さ、幅は長く、葉身の面積は大きい。未結果期間の枝梢伸長は比較的旺盛で、樹冠の拡大は「興津早生」に比べ早い。結実性はよく、豊産性であるが、隔年結果性は「興津早生」に比べやや大きい。

■果実特性

果実の大きさは120g前後で玉揃いは良い。果形指数は135程度で、やや扁平である。果面の平滑度、油胞の密度は中で、「興津早生」に比べやや粗く、果実肥大は良好である。果皮色は橙で、着色は育成地（和歌山県有田川町）において10月上旬から始まり、11月上旬に完着となる。減酸は早く、11月上旬に酸は1%以下になり、果肉の成熟は「興津早生」に比べやや先行する。じょうのう膜は軟らかく、多汁で、収穫開始期の食味は「興津早生」、「宮川早生」に比べ良好である。排水良好な園では糖度は「興津早生」に比べ同等か、もしくはやや高くなる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

品種特有の病虫害は認められず、早生温州の慣行防除で栽培が可能である。

枝梢の伸長は比較的旺盛なので過度のせん定で枝梢が徒長し、結実が不安定になる。そのため、幼木の間は枝の誘引と間引き主体の軽めのせん定で樹形管理と葉数確保に重点を置く。果実の後期肥大は良好であるため早期の強い摘果は控える。

■地域適応性

カンキツ栽培地域であれば植栽は可能であるが、高糖度栽培を行う場合は排水良好な傾斜地への植栽が望ましい。地下水位の高い園地では栄養成長が強くなって樹形が乱れ、さらに、果実品質が低下することがあるため、平坦地に植栽する場合は地下水位と排水性を高める園地改造を行う。

また、減酸が早く、食味が良い特性を活かして、11月上旬の早生温州の早だしとして出荷できるとともに、透湿性シートのマルチ栽培が適する品種である。

(森口幸宣)